

ご存知ですか？

次年度から、中学校英語が大きく変わります！

①勉強する英単語の量が増えます！

	旧版	新版	増加率
中学1年生	580語	781語	1.35倍
中学3年間合計	1373語	1671語	1.22倍

東京書籍の「NEW HORIZON」で取り扱われる単語数は、3年間で1373語→1671語と**1.22倍**に。特に中1では、580語→781語へと**1.35倍**にも！

更に、小学校で扱った約700語も既習単語として扱われるので、中学卒業時点で**約2400語**を覚えておくことになります。

また、新版の教科書では単語習得のためのページが新たに作られています。これは、**単語を自力で学習する力が今まで以上に求められている**ということの表れと見られます。

③小学生で触れた表現が、中1の最初からどんどん出てきます！

小学校英語で触れる表現例

He can bake bread well.【助動詞】

I want to study home economics.【不定詞】

I went to the mountains.【一般動詞の過去形】

I usually watch soccer games on Sundays.【頻度の副詞】

I'm good at running.【動名詞】

I'd like a hamburger and a salad.【丁寧な依頼】



今の小学校英語では、上記の通り、以前なら中2・中3で学んでいたような、多彩な表現を学習しています。

つまり、これらの表現に一度触れたことがある、という前提で中1の教科書が作られています。例えば、**中1の最初から、一般動詞とbe動詞が同時に出てきます。更には、今まで中2で習っていた「不定詞」「動名詞」も中1で習うことになります。親世代が習った順序とは、全く異なる形で学習していくのだ**ということをご承知下さい。

②今まで高校で習っていた文法を、中学校で習うようになります！

新出文法

- ・感嘆文
- ・原型不定詞
- ・現在完了進行形
- ・仮定法



今まで高校文法の代表格だった、上記の文法単元を中学生で学習することになります。

これらの単元は、「不定詞」「現在完了」「接続詞（条件節）」といった、**今までの中学文法でも難易度が高い単元を、もう一段階深めた内容になります。**つまり、**旧指導要領の内容は当たり前のように出来た上で、更に踏み込んだ文法理解を求めることになるのです。**

④英語の運用やコミュニケーションに重きを置いた内容になります！

新学習指導要領の方針である「思考力・判断力・表現力」の育成を見すえて、情報を読み取ったり、コミュニケーションをするような内容が増えています。また、以下の単語例からわかるように、**教科横断的な内容やSDGsのような時事的内容も扱われます。**

新版NEW HORIZONで学習する単語例

ecosystem（生態）

evacuation（避難・撤退）

sustainable（持続可能な）

glacier（氷河）

carbon dioxide（二酸化炭素）

extinction（絶滅）

populous（人口の多い）

heritage（遺産）

また、運用面が重視されることで、**基本文法・単語のような知識習得のための授業時間が減る可能性**があります。今までのような**文法・単語学習は、効率的に授業内で理解するか、授業外の学習できちんと復習することが大切**になってきます。もし文法・単語のような知識面でつまづくことがあれば、是非教室までご相談くださいませ。

※こちらに掲載している新教科書についてのデータ・分析は、エデュケーショナルネットワーク株式会社様の資料を参照・参考にしています。

- ・英単語の暗記に不安がある…
- ・英文法・国文法でつまづいた経験がある…
- ・小学校の英語表現が覚えきれていないかも…
- ・効率的に勉強する自信がない…



そんな人は、成基学園・ゴールフリーで先取学習を始めましょう！
お気軽にご相談ください！

